

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_連絡版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)フィール浜松高丘北店	階数	地上1F
建設地	静岡県浜松市中央区高丘北二丁目	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、近隣商業地域、法	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2025年4月28日
敷地面積	9,834 m ²	作成者	野崎 充敏
建築面積	2,750 m ²	確認日	2025年4月28日
延床面積	2,569 m ²	確認者	野崎 充敏



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.8 ★★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.5</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.5</p>	<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.7</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3</p>	<p>Q のスコア= 2.6</p> <p>LR のスコア= 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。</p> <p>物販店舗として、コストを考慮しつつも店舗空間の快適性や利便性及び、省エネ効果を考慮した計画とした。</p>		<p>その他</p> <p>0</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>室内環境の快適性を考慮した空調設備計画と照明設備計画とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>天井高さをH=3.6m以上とし、室内の快適性と室内環境の向上につつ、壁長さ比率を小さく抑え、空間の自由度を高めた計画とした。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>効率的なLED器具の採用等により省エネ性能の高い計画とした。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型機器の便器の採用と、汚染物質含有材料を使用しない計画とした。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率を抑えた計画とした。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	(仮称)フィール浜松高丘北店	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	----------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.2 /5	    	ふつう 
“災害に強いすおか”の形成 (Disaster)	2.9 /5	    	がんばろう 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.5 /5	    	ふつう 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.7 /5	    	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 
			がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.2
 <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 室内環境の快適性を考慮した空調設備計画と照明設備計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 効率的なLED器具の採用等により省エネ性能の高い計画とした。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 節水型機器の便器の採用と、汚染物質含有材料を使用しない計画とした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。</p>		Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
		LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制	
		LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑪ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒	
		LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
“災害に強いすおか”の形成(Disaster)		得点	2.9
 <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし</p>		Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.5
 <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 周辺の景観に対して調和のとれた建物配置、高さを配慮した計画とした。</p>		Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.7
 <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 周辺の景観に対して調和のとれた植栽計画とした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし</p>		Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ・景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	